

平成 30 年 3 月 9 日

南の風 263

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

先日ある試合会場で、ミニバスと中学校の指導者の方たちと、『強いチームをつくるには』にはどうすればいいか、という話になりました。その中で『コーチのリーダーシップの執り方』が大きな話題となりました。その時私が話したことを、「ぜひ南の風で取り上げてほしい」と言う要望がありました。

自分が実践している内容を中心に書きます。以前『南の風』で取り上げたものも若干入っています。

始めに「リーダーシップの種類分け」をして見ます。

まず手っ取り早く、弱いチームを強くするためのリーダーシップは、「支配型」もしくは「強権型」のリーダーシップです。強いリーダーが戦略を描き、選手（フォロアー）は一糸乱れず従うという方法です。これはスポーツだけとは限りません。あらゆる組織でリーダー自らが先頭に立ち、トップダウン式に指示命令を徹底させ、部下はリーダーの指示に忠実に動くことを求めるやり方です。

現在でもいくつかのスポーツの分野で、こうした「支配型リーダーシップ」、「強権型リーダーシップ」のもとで選手を鍛えるやり方をとっているところがあります。私はこのリーダーシップが悪いとは思いません。特に我々が指導しているミニバスや中学生の部活では、教え導かないと選手の方から「こうした方がいい」「こういうチームにしたい」というフォロアーからの提言は中々できないからです。初心者であったり、競技経験が浅かったりする場合は「支配型・強権型リーダーシップ」が功を奏することが大いにあります。成長過程の一時期にはそういうやり方が必要だと感じますし、それなりの成果が出れば喜びを見出せるし、大きな自信にもつながるからです。

但し、高校以上の各スポーツ分野では、そういうやり方一辺倒では、よい成績は残せないと思います。トップ（1位）にはなれません。それぞれのスポーツの「市場」が未成熟であれば勝てることはあります。戦略や戦術がそれほど研究されておらず、情報も乏しく、練習にも科学的視点が掛けている、というような状況であれば1位になることもあるでしょう。

しかし、「市場」が成熟してしまえば、そういう監督、コーチのもとで1位になることは不可能です。「支配型・強権型リーダーシップ」は、選手（フォロアー）が自主的に考え、判断し、行動する機会を奪うことにもつながるからです。選手が自主的、能動的に行動しないと、もはやそれ以上の伸びしろがなくなってしまうのです。

次に「サーバント・リーダーシップ」です。これは、リーダーがチームのメンバーに奉仕し、支援しながら目的達成に導くという「奉仕型リーダーシップ」です。リーダーがビジョンを提示したうえで、コミュニケーションや信頼関係を重視し、選手（フォロアー）が主体的に練習や、ゲームに取り組んでいくようにするのが特徴です。このやり方はリーダーから一方的に強制されるより、自由度が高く快適です。モチベーションも保ち安くなります。

しかし欠点として、馴れ合いになってしまいやすく、リーダーが選手（フォロアー）に近づきすぎてフラット化し、友だち感覚になってしまいがちです。その結果、緊張感が失われチームが弱体化してしまうことがあります。

次号に続きます。